

## 総務省国立研究開発法人審議会（第11回）

1 日 時 令和2年8月27日（木）15時00分～15時55分

2 場 所 WEB会議にて開催

3 出席者

（1） 委員（敬称略）

尾家委員（会長）、梅比良委員（会長代理）、  
大場委員、知野委員、藤井委員、水野委員（以上6名）

（2） 専門委員（敬称略）

入澤専門委員、大森専門委員、生越専門委員、小野専門委員、小塚専門委員、  
末松専門委員、橋本専門委員、藤野専門委員、藤本専門委員、前原専門委員、  
森井専門委員、矢入専門委員、若林専門委員（以上13名）

（3） 総務省

巻口国際戦略局長、牛山総務課長、柳島技術政策課長、吉田技術政策課研究官、  
古川技術政策課企画官、中嶋技術政策課課長補佐、山野研究推進室長、  
住友宇宙通信政策課長、中村宇宙通信政策課課長補佐、  
安藤情報流通振興課課長補佐

4 議題及び議事概要

（1） 令和元年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれる国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について

（2） 国立研究開発法人情報通信研究機構の業務及び組織の全般にわたる検討結果並びに講ずる措置（案）の内容について

（3） 令和元年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価について

（4） その他

## 開 会

【尾家会長】 それでは、尾家です。ただいまから第11回総務省国立研究開発法人審議会を開催いたします。本日はご多忙のところ、ご参集いただきまして、ありがとうございます。

初めに、定足数の関係でございますが、委員6名中6名の方が出席されておまして、定足数を満たしておりますことをご報告いたします。

また、本日は巻口国際戦略局長にご参加いただいておりますので、ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【巻口局長】 ありがとうございます。国際戦略局長の巻口でございます。国立研究開発法人審議会の開会に当たりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は、総務省が所管しております2つの国立研究開発法人、NICT及びJAXAにつきまして、令和元年度の業務実績評価、それからNICTの第4期中長期目標期間の見込評価、これは今後第5期の目標の策定につながるものと考えております。それから、業務及び組織の全般にわたる検討について、これまで部会のほうでヒアリングなども含めてご検討いただいていたところでございますけれども、本日ご審議をいただき、それぞれの法人に対する評価並びにご意見を取りまとめていただく予定となっております。

国立研究開発法人でありますNICT及びJAXAにつきましては、一定の自主性、自立性を発揮しつつ、国が定める業務運営の目標であります中長期目標を達成するため、自ら作成した中長期計画に基づきまして適正に業務を進め、研究開発の成果の最大化を図ることが第一の目的とされているところでございます。両法人につきましては、先進的な研究開発を推進しつつ、得られた成果を着実に社会へ展開・実装していくということが強く期待されているところでございます。両法人のPDCAサイクルをしっかりと回していくためにも、本日は忌憚のないご意見を頂戴できればと考えております。

尾家会長をはじめ委員の皆様、専門委員の皆様のご協力、ご指導をよろしくお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

【尾家会長】 巻口局長、どうもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、事務局から総務省の人事異動のご紹介と、配付資料の説明をお願いいたします。

【中嶋課長補佐】 事務局の中嶋でございます。前回の親会以降、総務省側の体制が一部変更になっております。各部会のほうでも一部お知らせしておりますが、改めてご紹介させていただければと思います。

まず初めに、藤野官房審議官でございます。7月の着任でございますが、本日は所用により欠席させていただいております。

続きまして、牛山総務課長です。

【牛山課長】 7月に国際戦略局の総務課長を拝命いたしました牛山でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

【中嶋課長補佐】 続きまして、柳島技術政策課長です。

【柳島課長】 同じく7月に着任いたしました技術政策課長の柳島です。よろしくお願ひいたします。

【中嶋課長補佐】 技術政策課、吉田研究官でございます。

【吉田研究官】 8月で技術政策課研究官として赴任いたしました吉田でございます。NICTの次期中長期計画の関係を担当させていただきますので、ぜひともよろしくお願ひいたします。

【中嶋課長補佐】 技術政策課、古川企画官でございます。

【古川企画官】 総務省技術政策課、古川でございます。よろしくお願ひいたします。

【中嶋課長補佐】 最後に、住友宇宙通信政策課長でございます。

【住友課長】 7月に宇宙通信政策課長になりました住友です。JAXAのほうを担当しております。よろしくお願ひいたします。

【中嶋課長補佐】 以上のような体制となっておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

それでは早速、本日の会議資料の確認をさせていただきたいと思います。今回、ウェブ開催ということで、事前に電子ファイルを送付させていただいております。非常に大量で恐縮でございますけれども、ファイル名の頭にナンバーを振っております。まず、ファイルナンバー00が本日の議事次第でございます。その後、01から14までということで、トータルで15個のファイルをお送りしているかと思いますが、本日ご議論いただきますメインの資料は04までとなっております。05以降は参考資料ということですので、適宜参照いただければと思います。万一ファイルの過不足ですとかファイル破損等ございましたら、すぐに事務局のほうまでチャットなりご発言いただくなりでお知らせいただければと

思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、前回議事概要の確認でございます。ファイルナンバー01が、前回ご審議いただきました審議会の議事概要ということになっておりますので、後ほどご確認いただければと思います。

事務局からは以上です。

**【尾家会長】** ありがとうございます。

## 議 題

(1) 令和元年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれる国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について

**【尾家会長】** それでは、お手元の議事次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。本日は議題が3件ございます。

まず議題1です。令和元年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれる国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について、事務局より説明をお願いいたします。

**【中嶋課長補佐】** 引き続き事務局中嶋でございます。ファイルナンバー02番の資料でございますけれども、ページを送っていただきますと、ページ番号を振ってございます。こちらの資料ですが、NICTの令和元年度、それから第4期中長期目標期間、この2つの業務の実績に関する評価ということで資料にまとめさせていただいております。

1ページ目をご覧ください。こちらが令和元年度におけるNICTの業務実績評価の関係の取りまとめたものになります。ご審議いただいた内容をこちらにまとめてございます。左上に、トータルの全体評定(案)ということで書いてございます。こちらがAとなっておりますが、ご審議いただいた結果、令和元年度、NICTは法人全体としてA評価でよろしいのではないかと評価をいただいているということでございます。

ご参考までに、右のところ、青い横の枠の中に、28年度からの各事業年度のNICTの評価を記載しておりますが、28年度から全てAということで、4年連続でA評価ということになってございます。

その下、自己評価に対する主な意見ということで、これは、各委員から頂戴しました意見をこちらにまとめさせていただいております。A評価の内訳としまして、各細かい評価

項目でS評価のもの、A評価のもの、B評価のもの、それぞれいろいろあるわけですが、全て2つずつということで、結果的にはトータルではAということになってございます。

2つ目の四角で、具体的にはということで幾つか書かせていただいておりますが、例えば、データ利活用基盤分野におきましては、多言語音声翻訳の関係の精度向上等を非常に向上させたということ、また、民間への技術移転が非常に進んだことなどを高く評価いただきまして、こちらはS評価ということになっております。また、サイバーセキュリティー分野につきましては、機械学習とサイバーセキュリティーの融合研究等を進めたことによって、非常に実用性が高まったということを高く評価いただき、こちらでもS評価ということになっております。

3つ目の四角でございますが、業務運営に係る4項目ということで書いてございます。こちらの業務に係る4項目といたしますのは、例えば研究支援業務ですとか、業務運営の関係、また財務関係等、いわゆるバックオフィスの業務ということになりますけれども、こちらに関しましては、業務の性質上、なかなか著しい成果というのは出づらいつころではあるのですが、間違いなく着実に実施しているということをお認めいただきまして、B評価となっております。

続きまして、法人の全体評価に関する意見ということで、こちらにも代表的なものを記載させていただいております。地方との連携、また、地方経済を見据えたさらなる地方との連携に期待しますというようなお声をいただいておりますとか、それから、人員、予算を含め、効果的な運用をまたさらに進めて、研究、社会実装を加速させていただきたいというようなことをメインで記載をさせていただいております。

1枚ページをおめぐりいただきまして2ページ目です。こちらが、今見ていただきました令和元年度、全体でA評価ということになっておりましたが、その内訳ということになります。各細かい研究の評価項目ごとの評定がこちらにリストになっております。1番のセンシング基盤分野から10番のその他業務運営に関する重要事項までということで、各個別に項目ごとに評価をいただきまして、それをこちらで一覧にしているというものになります。こちらをご覧くださいますと、評価が2つ並んで記載しておりますけれども、左側が自己評価、つまりNICTが自己評価をした内容が左側、それから右側に並んでいるA、B、Sというのが審議会から頂戴した意見ということになっております。結果的に、全てNICTの自己評価どおりの評定で問題なかろうという評定をいただいているところでございます。

ここまでが令和元年度のNICTの評価の内容になります。

続きまして3ページ目をご覧ください。先ほどと同じような様式が出てきましたけれども、こちらは第4期中長期目標期間終了時に見込まれる評価ということで、この目標期間中の見込評価ということになってございます。評定としましては、全体評定はこちらもAということで、今までの4年間、5年間のNICTの期間見込評価としては、Aが相当であろうという評価をいただいているところになります。

また、こちらでも過去の評価期間、中長期期間のものも参考までに右上に記載をしております。前期におきましてもAということになっております。また、それより前につきましては、評価のやり方等がちょっと違っておりますので、A、B、Sというような評価は記載はしておりません。こちらにも先ほどの年度評価と同じく自己評価に対する主な意見、それから法人の全体評価に関する意見ということで記載をさせていただいております。こちらでもやはりデータ利活用分野、それからサイバーセキュリティー分野につきまして高く評価をいただいているところでございます。また同様に、業務運営に係るバックオフィスのなところに関しましては、見込評価に関してもBという結論になっております。

法人の全体評価に関する意見ですが、こちらにつきましては4つほど記載しておりますが、1つ目、オープンイノベーションの関係で推進本部を設置する等、非常に積極的に取り組んでいただいたというようなことを記載しております。また引き続き取組を進めていただきたいというようなご意見を頂戴しているところでございます。

ページをめくっていただきまして4ページ目をご覧ください。こちらが中長期目標期間見込評価の各項目ごとの内訳の評価ということになっております。先ほどの年度評価と同じく、左側にNICTの自己評価、右側に審議会から頂戴した最終的な意見（案）ということで記載をしております。この見込期間の分に関しましては、一部NICTの自己評価と異なる評価をいただいているところがございます。それが5番目、フロンティア研究分野のところですが、赤色にしてありますけれども、新規ICTデバイス技術の分野、それからフロンティアICT領域技術の分野、この2つにつきまして、NICTの評価と異なる結果を審議会として下していただいているということになります。こちらは、今までの3年間の評価の内容ですとか、そのバランス、それから様々な成果をどのように評価したらよろしいのかということで、若干いろいろな意見をいただいたところですが、例えば新規ICTデバイスに関しましては、結論としてはA評価が妥当であろうと。ただ、非常に大きなインパクトを与えるものでもありまして、限りなくSに近いAというような結論をいただいている

ところでございます。

続きまして、1枚おめくりいただきまして5ページ目です。ここから先は、各評価項目ごとの細かい内訳になります。先ほど、各分野ごとにAとかSとか評価をいただいた内容、一覧表をご覧いただきましたが、そのAとかSと評価いただいたその根拠となる具体的な内容をこちらにバックデータ的に記載をさせていただいております。

5ページ目が、No.1のセンシング基盤分野に関する記載になっております。こちらは縦に1本線が入っておりまして、左側と右側に分かれておりますけれども、左側の枠が令和元年度の評価、それから右側の枠が中長期目標期間の見込評価ということで、同じ分野につきまして、年度評価と見込評価を並べてご覧いただけるように、今回2つ並べた形の様式を記載をしております。5ページ目、6ページ目がNo.1のセンシング基盤分野、それから7ページ目がNo.2であります統合ICT基盤分野ということで、No.10までずっと添付をしているというような状況になってございます。

事務局からはひとまず以上でございます。

**【尾家会長】** ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見などございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。これまで大変活発なご意見をいただき、その結果としてこういうふうになっておりますが、改めまして何かございましたら、お願いいたします。

いかがでしょうか。藤井先生、何かございますか。

**【藤井委員】** どうもありがとうございます。私のほうは結構でございます。これよいと思います。

**【尾家会長】** ありがとうございます。大場委員いかがでしょうか。

**【大場委員】** 大場です。問題ありません。

**【尾家会長】** ありがとうございます。それでは、令和元年度並びに第4期中長期目標終了時に見込まれる業務の実績に関する評価に関しまして、今事務局から説明いただいたことに関しまして、ご了解いただいたと理解いたしました。それでは、その件に関しまして、案のとおり取りまとめることにいたします。

総務省におきましては、引き続き最終的な評価に向けた作業等をお願いしたいと思います。事務局よろしくお願いいたします。

**【中嶋課長補佐】** ありがとうございます。

(2) 国立研究開発法人情報通信研究機構の業務及び組織の全般にわたる検討結果並びに講ずる措置(案)の内容について

【尾家会長】 それでは続きまして、議題2の国立研究開発法人情報通信研究機構の業務及び組織の全般にわたる検討結果並びに講ずる措置の内容につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

【中嶋課長補佐】 引き続き、事務局中嶋でございます。ファイルナンバー03です。「国立研究開発法人情報通信研究機構の業務及び組織の全般にわたる検討結果、並びに講ずる措置について」ということをご説明をさせていただきます。こちらはNICT部会のほうで既にご議論いただいた内容でございますが、今回、JAXA部会の先生にもご参加いただいておりますので、改めまして、位置づけから簡単にご説明をさせていただきたいと思いません。

本調書でございますが、こちらは独立行政法人通則法を根拠にした資料になってございまして、通則法で、主務大臣、つまり総務大臣が法人の見込評価を行った場合には、その法人の業務全体にわたる見直し、組織の存続の必要性、また、業務及び組織の全般にわたる検討を行いまして、その結果に基づいて、業務の廃止もしくは移管または組織の廃止その他所要の措置を講ずるものとする定められております。このため、その検討を行った結果というのがこちらの調書になってございます。また、研究開発に関する審議会、こちらの国研審のご意見をいただかなければならない、ちゃんと聞くことというふうな定めにもなっておりますので、今回、こちらを意見の案として取りまとめさせていただいているものでございます。

1ページ目ご覧いただきますと、まず最初に前提として、政策体系における法人の位置づけということで記載をしております。こちらには、統合イノベーション戦略ですとか、また、骨太の方針等々様々な政策の位置づけの中でNICTがどのように位置づけられているかというところを記載しているということになります。

ページおめくりいただきまして、2ページ目です。区切りが分かりづらくて恐縮なんですけれども、2ページ目の中段辺りにBeyond 5Gという記載がございます。こちらは、前回の部会のご議論をいただきまして若干記載を修正しておりますので、お知らせをさせていただきます。前回、Beyond 5G、いわゆる6Gということで記載をしておりましたが、委員から、6Gで終わることなく、さらにその先を見越して7Gとか、さらに諸外国と同じように先

のほうまで見越した記載が必要ではないかというご意見を頂戴しましたので、「更にその先も見据え」という記載を追加しているところでございます。

また、3ページ目をご覧ください。ここからは業務及び組織全般の見直しということで、実際NICTにどのように業務の見直しを依頼するかというところの指摘事項ということになってございますけれども、真ん中の1、業務の見直し、(1)で、重点的に取り組むべき重点研究開発課題ということで幾つか挙げてございます。①電磁波先進技術分野、②革新的ネットワーク分野、③ユニバーサルコミュニケーション分野、④サイバーフィジカルレジリエンス分野、それから⑤フロンティアサイエンス分野ということで、こういった区分、こういった課題に積極的に取り組んでいただきたいということを記載しております。現在の区分とちょっと似ているところもありますけれども、細かい中身等を組み替えながら、時流に合った形でまた新しく設定をしているという形になります。

同じく3ページの一番下のところにもBeyond 5Gの記載がございますけれども、こちらも前回の部会のご意見を踏まえまして、「Beyond 5Gや更にその先も見据えた」ということで、Beyond 5Gで終わることなく、さらにその先までという記載に変更しております。

ページをおめくりいただきまして4ページ目です。また同じく、戦略的に取り組む分野ということで、Beyond 5Gと並びでAI、それから量子、サイバーセキュリティということで4つ記載をしております。このうち、真ん中のウ、量子情報通信の部分でございますけれども、こちらも、前回非常にシンプルに、基盤技術の確立を目指すことと書いてあったんですが、こちらはこれから次期中長期でかなりインパクトのある重要な部分でありますので、もっと詳しく記載するべきではないかというご意見を頂戴しまして、量子情報通信分野につきましては、若干詳細な記載ぶりに変更しているところでございます。

それから続きまして5ページ目です。こちらには、今後またNICTに取り組んでいただきたい業務の内容として、また真ん中辺りに①、②ということで記載をしております。「現行の研究開発の推進スキームの在り方を見直すとともに」ということで、民間企業との連携のスキームをさらに推進していただきたいということ。また「企業のニーズに対応した連携システムの導入」等に関しても検討いただきたいという記載になってございます。また、②に関しましては、地方との連携ということも非常に重視をしております、様々なステークホルダーの垣根を越えて取り組んでいただきたいというような記載になってございます。

それから(2)です。こちらは、最近の若手研究員の方の環境が非常に悪化しているとい

うことをごさいますて、人材育成ですとか人材確保といった観点に関してもさらにまた力を入れていただきたいということが、5ページから6ページにかけて記載をしてごさいます。

それから6ページ目、中段よりやや下のところ、(4)です。新型コロナウイルスの関係も若干記載をしております。新型コロナウイルスの感染の拡大に伴いまして、NICTでもテレワーク、ローテーション勤務等々非常に積極的に現在取り組んでいただいておりますが、これで終わることなく、今後引き続きまた活用していただきたいというようなこともこちらに記載をしているところをごさいます。

それから、7ページ目です。こちらの最後のほうにコンプライアンスということもしっかり記載をしております。理事長のコントロールの下、ガバナンスを利かせていただきまして、コンプライアンス業務に関してもしっかりと推進をしていただきたいというような記載で最後を締めくくっているものになります。

こちらを大臣への意見ということで取りまとめさせていただいているところをごさいます。

事務局からは以上です。

**【尾家会長】** ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見などがございましたらお願いいたします。

**【梅比良会長代理】** 梅比良ですけれども、よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。この中で、5ページ目の中で、例えば(3)のところなんですけれども、例えば若手研究者に対する支援とかポストの拡大とかというような文言が出ていて、これは似たような話がJAXAの中でもあるんですけれども、いわゆる人件費の問題とかなり密接に関係するところがあると思うんですが、これは全体の流れとして、例えば国立研究開発法人の人件費についてももう少し柔軟性を増すとか、こういうような話というのは出てきているのでしょうか。

**【尾家会長】** ありがとうございます。この辺り、中嶋補佐、何かございますでしょうか。例えば以前ですと、人件費の枠はある一定を越えてはいけないとか、そういったことも、総務省さん関係もございましたでしょうか。今は緩和されているのでしょうか。

**【中嶋課長補佐】** 人件費の枠の関係になりますと、非常にまた大きな話でもございますが。

**【尾家会長】** 今は特に上限が定められているわけではないんですか。予算の範囲の中

で、NICTの中で判断すればいいということでしょうか。

【中嶋課長補佐】　そうですね、全体の予算の枠の中でご判断いただく形にはなりませんけれども、確かにNICTのほうから、予算の交付金の枠の中でいかに人材を確保していくかというところは非常に難しい課題であるというようなお話も常々いただいているところではございます。今後また検討していく必要があるかとは思いますが。

【尾家会長】　分かりました。多分、梅比良先生のご質問は、以前は人件費抑制でというのがあったかもしれないので、若手を採用するとなると困難さがないかなというご指摘でしょうか。

【梅比良会長代理】　まあそういうことなんですけれども、以前だと、特に、いわゆる国立研究法人でない時代というのは、人件費が幾らだというふうに完全に定められているので、ここからにっちもさっちもいかないというような状況だったかと思うんです。それが国立研究開発法人になって、もう少し柔軟性を増すというような格好にはなっているんですけど、今まで私が認識している範囲では、人件費についてはやはり予算でこれだけだというふうな縛りがあって、特に最近は年1%というのが結構長い間続きましたよね。というので研究員も減らさざるを得ないという状況があって、ここで今回そこを拡大しましょうとかという話をすると、そこを避けて通れない話になってきているような気もしていて、うまくそういった全体の制度と、ここで書かれた話がうまく整合が取れるかなというのが気になったもので、ご質問させていただきました。ぜひこういう話であれば、例えばもう少し人件費と研究直接の枠を少しいじれるというようなことを考えていかないと、なかなかここに書いただけという話になってしまうんじゃないかというのを危惧した次第でございます。

【尾家会長】　どうもご質問ありがとうございます。この辺りまた後ほどでも結構ですけど、趣旨としては、もし制約があるのであれば、その辺りは柔軟にできるようにしてほしいとか、検討してほしいとか、そういったことだと思います。

【中嶋課長補佐】　ありがとうございます。

【柳島課長】　柳島技術政策課長です。私は直前までNICTにおりました関係で、若干そういった話もありましたけれど、特に課題として挙げられていたのは、パーマネント職員を採用しようとする、交付金の額に比例するような形で採用していかなければいけない。一方で、交付金はなかなか増えないどころか若干減ってしまっているというような状況があって、なかなかパーマネントの職員というのが非常に採用が難しくなっているというよ

うな状況はあると。一方で、NICTも外部資金をどんどん活用するというのでやっておりまして、そういった中で、有期雇用の職員についてはその枠の中で対応できているというような部分もあります。パーマネントの職員と有期雇用の職員をどう考えていくのかというのは、なかなか難しいところではあるんですけども、そういう意味で、独立行政法人というか国立研究開発法人であるNICTとしては、そういった部分で比較的パーマネントに限らなければ人件費というものをいろいろなところで使っていけるというような状況にあるのではないかと私としては思っているところです。

以上です。

【尾家会長】 ありがとうございます。梅比良先生、いかがでしょうか。

【梅比良会長代理】 そういう話は非常によく分かるんですけども、例えばNICTが外部資金とかいろいろな研究開発成果である程度収入が得られるようになったときには、それを使ってパーマネントの職員を雇ってもいいよみたいな格好で取り組むようにしないと、実際に若手のほうのポストが増えたとしても、それは結局非正規の任期付きのポストにしかなくて、今までよく指摘されていたような研究者たちに魅力があるようなことになかなかならないというふうな指摘も今までされてきたところだと思いますので、もう一段踏み込んで取り組んでいただければと思います。

【尾家会長】 ありがとうございます。そういった意味では、文章の中には、若手職員が安定かつ自立して研究を推進できる環境を実現するためにと書かれてありますので、その辺り、今後推進していただきたいというご意見だと思います。

【中嶋課長補佐】 ありがとうございます。

【尾家会長】 そのほか何かご意見、ご質問ございませんでしょうか。

前回、大変活発な意見交換がなされまして、今説明ありましたように、特に、Beyond 5Gのさらにその先まで積極的に研究開発に取り組んでほしいということで、前回の事務局の提案を修正いただいて、もう少し踏み込んでいただいたと思います。また、量子通信に関しましても、今後さらに重要性を増すだろうから、もう少し記述を豊かにしてほしいということで今回修正いただいております。

ご提案いただいた委員、専門委員の方々、何か改めましてございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

【藤井委員】 藤井ですけれども、結構だと思います。

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、これまでいただきましたご意見に沿

って修正いただいておりますので、皆様ご理解いただいたと思います。あと、先ほどの若手研究員の雇用関係に関しましては、引き続き改善に努めていただくようお願いしたいと思います。

(3) 令和元年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価について

【尾家会長】 それでは、皆様ご理解いただいたということで、続きまして、JAXAの令和元年度における業務実績評価に対する意見につきまして、ご説明をお願いしていいんですか。何かいっぱいあって、間違っていないですか。よろしいですか。

【中嶋課長補佐】 はい、大丈夫です。

【尾家会長】 そうですね、では議題の3番目に移ってよろしいですか。

【中村課長補佐】 では、JAXA部会の事務局を務めております宇宙通信政策課の中村と申します。資料国研11-4と振られている「令和元年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価について」という資料に基づいてご説明をしたいと思います。

1 ページ目をご覧くださいと思います。JAXAの評価ですけれども、NICTと異なりまして、平成30年から第4期中長期目標期間に7年が入っております、その2年目ということで、今回については年度評価のみとなっております。また、JAXAですけれども、総務省に加えて、内閣府、文部科学省、経済産業省の4府省の共管となっております、NICTのときには全体の評定案というものが出ていたかと思いますが、この評定については、個々の各府省の審議会からのご意見をいただいた後、共管の4府省で協議の上、大臣評定を下すという形になっておりますので、こちらの全体の評定については、ここには記載しておらず、各個別の項目に関しての自己評価及びそれに対する部会の意見、また、その総括ということでお示しをしております。

資料1 ページの総括のところですが、全体ですけれども、JAXAの自己評定はおおむね妥当という部会からのご意見をいただいております。ただし、次の7項目については自己評定とは異なる評定が妥当と。また、1項目については評価が困難であると言われております。

この異なる項目についてですけれども、2つ目の自己評価に対する主な意見（案）という枠囲みのところで簡単にご説明させていただきたいと思っております。1ポツ目の衛星リモートセンシング、こちらは自己評価Sに対してAが妥当であるということとして、JAXAの取組としては、超低軌道衛星の「つばめ」ですとか、あるいは様々なリモートセンシングの衛星データを利活用して様々なところに普及が進んできた、こうした実績があることからSとついていたんですけれども、部会の意見としましては、その低軌道衛星の「つばめ」については、では実用化目標に対しどの程度の位置にあるのかということ、また、ALOSやGSMaPなどの様々な衛星のリモートセンシング、こういったことによるデータ利用の拡大効果というのは、今まさに取組が始まったばかりであるということから、この効果を判断するということについては、まだ時期が早いのではないかとということで、取組自体は様々な顕著な成果があるものの、A評価が妥当ではないかといいただいているところでございます。

続いて2ポツ目の国際宇宙ステーションでございます。こちらは、国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」ですとか、また、「こうのとりのゆりかご」など様々な活動を行っているところでありますが、こちらで特に実験棟「きぼう」などで様々な宇宙環境を利用した成果であるとか取組がなされているところではございますけれども、こちらは、国際宇宙ステーションはかなりコストがかかっているというところもありまして、こういった運用コストに見合ったビジネス価値の創出というのができていないのかどうかといったことを考えると、様々な成果が出ているものの、A評価とすることが妥当ではないかというご意見をいただいております。

また、3ポツ目の人工衛星等の開発・運用を支える基盤技術ですけれども、こちらは大きく分けて成果が2つございまして、1つはDTNという遅延耐性のネットワークです。こちらについて、宇宙で使うための国際標準化活動を推進していったと。また、衛星の環境整備などの施設といったものについて、PPP的な手法を導入しまして施設利用の効率化を図ってきたということが特に顕著であるとして、自己評価としてはS評価がついておりますけれども、部会の意見としては、DTNの国際標準化活動については、これをもって日本がどういった立ち位置に行くのか、あるいはどのような利益をもたらしたのかということが必ずしも明確ではないのではないかとといったこと、また、PPP的な手法というところについても、成果についてはこれからコストの削減であるとか効率化が図られたという具体的な成果が出てくるというところでもありますので、そうした出てきた成果を見て、

もう少しきちんと判断すべきではないかというようご指摘をいただきまして、こちらも自己評定Sに対してAが妥当といただいているところでございます。

またその次の、新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化というところですが、こちらについては、JAXAが様々行っている基盤技術は、スペース・デブリも含めて様々な取組が出てきていて、これからその実証が進んでいく、あるいは企業との共同研究が始まっているといったところでございますけれども、こうした多方面にわたる研究開発、社会実装などといった取組が行われているというのは評価できるものの、こうした取組が確立されたり、あるいは実証事業といったものについては、その成果が出てからSかどうかという議論をすべきではないかということで、様々な取組が行われているということをもってA評価が妥当ではないかというご指摘をいただいております。

次の5ポツ目の国民の理解増進と次世代を担う人材育成への貢献という項目ですが、こちらにつきましては、広報戦略、人材育成というところが大きな中身になっておりまして、JAXAにおいては、令和元年度から、これまで相対的に宇宙に対する興味が薄く、また、今後のステークホルダーにもなり得るような20代から30代の若い男女に向けてということで、ある程度ターゲットを絞った広報戦略にして、量だけではなく質も追い求めるような形で様々な広報戦略を打っていくといった取り組み、こういったものが転換されたところですが、こうした新たな広報戦略の成果というものについては、ターゲットとしたところにちゃんとリーチしているかどうかといったものを捉えて評価をすべきではないかということで、自己評定Sに対してAが妥当であるという形になっております。

ここまでの5項目につきましては、自己評定Sに対してAが妥当であるというご意見をいただいております。また、その次の6ポツ目、施設及び設備に関する事項につきましては、一方としてA評定に対してSが妥当であるというふうにいただいているところでございます。こちらについては、JAXAも交付金あるいはその予算に限りがある中で、この施設の更新・整備という必ずしも日の当たらない分野を、全社的な経営課題としてしっかり位置づけて、計画も立てて、それを実行している。また、省エネルギーの取組などで光熱費の削減など、ある程度成果が出てきているというところも考えると、こうした全社的な経営課題として位置づけて成果が出てきているというところについて、JAXAが置かれた状況に照らすと極めて適切であると、ここは特に顕著な成果と言えるのではないかとということで、自己評定Aに対してSという形でいただいているところでございます。

また、最後の7ポツ目の情報収集衛星に係る政府からの受託については、評価困難とい

う形で部会からご意見をいただいております。情報収集に係るということで、評価の場でも具体的などといった成果があるかというところがなかなか示せないというところもありまして、JAXAから出てきた情報だけでは、なかなか評定の妥当性を判断することが難しいということで、部会としては評価が困難という意見をいただいているところでございます。

また総括に戻っていただきまして、JAXAにつきましては、先ほどのNICTの項目別評価と同じように、ある程度の項目のまとめりごとの評価というのがございまして、そこについて2ポツ目の宇宙政策の目標達成に向けた分野横断的な研究開発等の取組というものがございまして、こちらは中身が2項目ございまして、JAXAの自己評定は、1項目がA、もう1項目がSということで、まとめりとしてはSという評定だったんですけども、そのうちの1項目になっています、新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化という項目について、部会意見としてはAが妥当であるということになったことから、中身の2項目両方ともAが妥当という結論になりましたので、こちらのまとめり評価についてもSからAが妥当ではないかというようなご意見をいただいております。

そのほか、法人全体の評価に関する主な意見としまして、JAXAの業務については種類も内容も増えている、その中で予算、人員の限りがあるのをどう割り振っていくかというのは大きな課題であるので、従来とは違う発想で組織の編成や取組というものを考えていくべきではないかといったご意見。また、今回の評価、分かりやすい成果だけではなく、必ずしも目立たないような基盤技術の開発、あるいは地道な調査分析活動といったものについてもしっかり評価がなされているのではないかと、こういったことは非常に適切であるので、引き続き取り組んでいくべきではないかというようなご指摘をいただいているところでございます。

続いて2ページ目をご覧ください。先ほどの概要を踏まえまして、全項目を並べて評価をつけたものが2ページ目になっておりまして、自己評定に対して部会の意見（案）が下がったものについては赤の文字、また、自己評定に対して部会の意見（案）が上がっているものについては緑になっております。また、情報収集衛星については評価困難という形でついてございます。

そのほか、自己評定と部会意見とが同じでございまして、項目Ⅲ.3.8の宇宙科学・探査につきましては、はやぶさ2の成果がございまして、はやぶさ2がしっかりと2度目の着陸も含めてミッションを達成したということ、また、そのほかの宇宙科学・探査でも科学的に非常に大きな成果があつて、顕著な論文なども出ているということで、

こちらについては自己評価が妥当ということで、S評価ということでいただいております。

総括では以上になっておりまして、3ページ目以降については、この部会においていただいた意見を個別の項目ごとに並べた細かい表になっておりまして、部会でいただいた意見を基に事務局で取りまとめさせていただいたものになってございます。

駆け足で申し訳ございません、部会の説明としては以上でございます。

**【尾家会長】** ありがとうございます。令和元年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価につきましてご説明いただきました。ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見などございましたらお願いいたします。

JAXAの自己評価はおおむね妥当ということでしたが、幾つかの項目について自己評価と異なる評価になさったということです。あと評価が困難なこととか、あと、自己評価がAだったものを最終的にSと評価されたり、いろいろ議論があったかと思います。何かこの辺り、梅比良先生、ご質問というのは変ですね、ご意見がございましたらお願いします。

**【梅比良会長代理】** 茨城大学の梅比良でございます。これを見られると、ちょっと辛いんじゃないかと思われる方も多くおられるんじゃないかと思うんですけども、一個一個かなり議論して、やはりこれはSよりはAではないかというような格好になったものです。なので、全体的にSを全部Aにしようかと思ってやったわけではないです。

それで、議論があったのは、例えば産業の話とか、7年の2年目ということで、非常にいろいろ新しいことを始められていて、全体的にそれが滑り出してきた段階じゃないかなというのが全体的な認識です。いろいろな民間の企業との協力とか何かはうまくいき出したと。ただ、そのうまくいき出したということをもってSとするのはどうかというような意見がやはり多くて、結果としてこのような格好になっているんだと思っていただければいいかなと思います。

あと、宇宙ステーションの話は、もう以前からずっとがたがたがたがた評価のときもいつももめている話で、やはりかなりお金を使っているというのもあって、じゃあそれに見合ったものなのかというところの評価が、やはりJAXAと評価委員の先生方とで少し認識のずれがあるような気がしております。全般的には以上です。

あとそれから施設及び設備に関する事項でSにしたのは、こういったところというのはなかなか地道な努力が要るところで、今回それがかなり大きなコスト削減ができて、なおかつ、いろいろな設備が整備・更新できてきていて、そういったものを捉まえて高く評価してあげるといことは大事じゃないかということで、このところについてはSというこ

とになっております。

それから最後に、情報収集衛星についての受託について、今回は評価困難という格好でさせていただきました。今まで評価できていたのかというと、あまりきちんと評価委員会の中で議論が十分にできていない、情報が足りないということでやってきたわけですが、今回はやはり評価するならちゃんと情報を出していただいて、一方で、なかなかやり出せないという話もたくさんあると思いますので、今回については、一回立ち止まって評価の方法を考えるという意味もあって、評価困難という格好でさせていただいております。

以上です。

**【尾家会長】** ありがとうございます。これまでの状況を丁寧にご説明いただきました。全体的にはJAXAの評価は良好だったということですが、今後の成果をさらに見定めて、例えばS評価が妥当かどうかということを見極めていきたいということかと思っております。

ほかの委員の方、また専門委員の方々、ご意見、またご質問とかございましたらお願いいたします。

いかがですか。何かご意見ございますでしょうか。

ではよろしいでしょうか。恐らくこれまで活発なご議論をしていただいた結果として、今日、資料が出てきているのかなと思います。それでは、お認めいただいたということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

**【尾家会長】** 特に反対ないようですので、それでは、JAXAの令和元年度における業務実績評価に対する意見につきましては、案のとおり取りまとめることといたします。

総務省においては、関係府省との調整を進めていただくなど、引き続き最終的な評価に向けた作業等をお願いいたします。

なお、NICT及びJAXAの最終的な評価結果につきましては、後日、事務局から委員及び専門委員宛てにお知らせいただきたいと思います。

それではありがとうございます。これまで3件の議題をご審議いただきました。それぞれご意見いただきましてご了承いただいたと思います。2番目につきましても、ご意見いただいたものを受けまして、事務局におきまして、NICTの業務及び組織の全般にわたる検討結果並びに講ずる措置の内容の作成をお願いいたします。

#### (4) その他

最後の議題としましては、その他としております、全体を通しまして何かございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。なかなかウェブ会議だと皆さんの状況が把握しづらくはありますが、何かご意見ございませんでしょうか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

**【尾家会長】** ありがとうございます。それでは、事務局から今後の進め方につきまして説明をお願いできますでしょうか。

**【中嶋課長補佐】** ありがとうございます。本日のご審議等を踏まえまして、関係府省とも調整しまして、今後の評価の取りまとめ作業を進めていきたいと考えております。

NICTとJAXAの最終的な評価結果につきましては、先ほど会長からもありましたが、それぞれ主務大臣の意見として取りまとめまして、今年は9月の中旬をめどに独立行政法人評価制度委員会に提出するとともに公表という流れを予定しているところでございます。

最終的な評価結果につきましては、別途、事務局よりご連絡をさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

また、秋以降には、NICTの次期中長期目標の策定に向けまして、また審議会のご意見を頂戴できればと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上でございます。

**【尾家会長】** ありがとうございます。以上で本日の議題は終了いたしました。

最後に、事務局から連絡事項等あればお願いいたします。

**【中嶋課長補佐】** 次回の審議会の日程に関しまして、現在決まっているところまでお知らせさせていただきたいと思っております。

NICT部会につきましては、先ほど申し上げました11月下旬頃をめどに、次期目標案に係るご審議をいただきたいと考えております。詳細な日程につきましては、別途また調整の上、ご連絡をさせていただきます。

また、JAXA部会につきましては、9月の中下旬以降に宇宙基本計画の策定に伴う中長期目標の変更のご審議を予定しておりますので、こちらからもまたJAXA事務局のほうからご連絡をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

## 閉 会

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、以上をもちまして第11回総務省国立研究開発法人審議会を終了いたします。どうもありがとうございます。今後ともよろしく  
お願いいたします。